

2022. 5. 8 (日) 使徒1:1~5

1:1 テオフィロ様。私は前の書で、イエスが行い始め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。

1:2 それは、お選びになった使徒たちに聖霊によって命じた後、天に上げられた日までのことでした。

1:3 イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。

1:4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れな
いで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

1:5 ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテ
スマを授けられるからです。」

<説教>

「使徒の働き」は〈私〉と言っているルカが〈書き記し〉ました。(1)

〈前の書〉とは「ルカの福音書」のことで、「使徒の働き」は「ルカの福音書」の「後
の書」、続き、第二巻として書かれました。

どちらも〈テオフィロ〉という、当時のローマ帝国でかなり高い地位にあったと考えら
れている人(ユダヤ人ではない人、すなわち異邦人)宛てに書かれました。(ルカ 1:1-4)

なお、ルカも異邦人であり、医者でもあり、パウロの伝道に同行した人でもありました
(コロサイ 4:14)。

ルカの福音書の初めにあるように、〈テオフィロ〉はイエス・キリストの教えをすでに
受けていた人であり(ルカ 1:4)、イエスを信じていたか、少なくとも熱心な求道者だっ
たようです。

ルカはわざわざ〈テオフィロ〉一人のために、まず〈イエスが行い始め、また教え始め
られたすべてのことについて〉、つまり〈お選びになった使徒たちに聖霊によって命じた
後、天に上げられた日までのこと〉を〈書き記し〉ました。(1-2)

そして更に続けて〈テオフィロ〉一人のために、イエスの昇天後のことについて「第二
巻」を書き記すことによってルカは〈テオフィロ〉の信仰を励まそうとしたのでしょう。

つまり、〈天に上げられた〉イエスはもう目に見える姿では地上にはおられないけれど
も、確かなにお生きておられ、ご自分が〈お選びになった使徒たち〉、〈聖霊によって命
じた〉〈使徒たち〉を通して、〈聖霊によって〉みわざを〈行い〉続け、みことばを〈教
え〉続けておられるということです。

〈テオフィロ〉がこれからはイエスが〈お選びになった使徒たち〉の〈行い〉〈教え〉
を通して、そして〈使徒たち〉が語るイエスのみことばと共に働きになる〈聖霊によっ
て〉、彼がすでに受けた教えが確かであることをよく分かってほしいとルカは考えたに違
いありません。

そして〈テオフィロ〉がその名前の通り、神(テオス)の愛する人(フィロス)だとい
うことをよく分かってほしい、そしてイエスをますます信じ、神に感謝と讃美を捧げ、神
に従って歩んでほしいと思ってルカは「第二巻」を書いたに違いありません。

もっとも、ルカはテオフィロー一人だけが（まるで隠れてこっそりと）第一巻・二巻を読めばいいと思ったのではなく、テオフィロをスタートとして、テオフィロの周りの同じ異邦人の信仰者や求道者にも読んでほしいと思って書いたにも違いありません。

そしてそうやって書き記されたものが今、この私たちも読むことができるように、私たちにも与えられているという神のお恵みに私たちは感謝しなければなりません（もちろんそのことはルカの著書に限らず今や聖書全体について言えることです）。

さて、テオフィロがそれほど目を留め、その語る言葉に耳を傾けなければならないところの、イエスが〈お選びになった使徒たち〉とはどんな人たちだったのでしょうか。

それは〈イエス〉が〈苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを〉〈示された〉人たち、よみがえりのイエスが〈四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた〉人たちでした。(3)

イエスは〈四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られ〉ることによって、ご自分の十字架の死とよみがえりを事実として信じさせ、彼らをご自分が〈お選びになった使徒たち〉として、いわば改めてお召しになったのです。(cf. ヨハネ 21 章)

イエスが彼らにお語りになった〈神の国のこと〉とは、〈パウロは、少しもはばかりことなく、また妨げられることなく神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた〉(28:31)、また〈パウロは、神の国のことを証しし、モーセの律法と預言者たちの書からイエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた〉(28:23)とあるように、要するに十字架の死とよみがえりのイエスご自身のことです。

そのように〈使徒たち〉が〈エルサレムから開始して〉(ルカ 24:47)イエスの十字架の死とよみがえりのことを人々に教えるイエスの証人(8)、〈イエスの復活の証人〉(22)となるためにはどうしても聖霊の格別な働き、助けと導きが必要でした。

それでイエスは彼らに〈エルサレムを離れないで〉〈聖霊によるバプテスマを授けられる〉という〈わたしから聞いた父の約束〉を待つようにお命じになりました。(4-5)

〈見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい〉(ルカ 24:49)とのみことばを〈前の書〉にルカが書いたように、またすぐ後でもイエスが言われるように(8)、〈聖霊のバプテスマ〉とは天から送られる聖霊を受け、聖霊の力を受けることです。

最後の晩餐の席で、〈わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。〉(ヨハネ 14:16-17)とイエスは言われました。

それが使徒たちが〈わたしから聞いた父の約束〉でした。

かつて〈水でバプテスマを授け〉たバプテスマのヨハネも〈聖霊によってバプテスマを授ける者〉イエスを証ししたのです。(ヨハネ 1:33)

〈天に上げられた〉イエスに代わって世の終わりまでいつまでも使徒たちとともにいてくださる神なるお方が聖霊です。

聖霊は、使徒たち一人一人に十字架の死とよみがえりのイエスを信じさせるだけでなく、(この後「使徒の働き」にルカが書き記したように)信じた一人一人をキリストをかしらとする教会として集め、キリストのからだ・手足としてキリストのために働きキリストに仕え人に仕えさせる特別な力をお与えになるのです。

〈生きている〉イエス・キリストが、ご自身が〈始め〉られた〈行い〉と〈教え〉を、ご自分のからだである教会を通し、〈使徒たち〉を通して、〈聖霊によって〉お続けになったことをルカが〈書き記し〉たのが「使徒の働き」です。

イエスが私たちのために、私たちの代わりに十字架で死んでくださり、三日目によみがえられたので、私たちはもう死も死後の審判も恐れなくてよい、イエスと同じように死んでもよみがえらせられ、永遠に生きるのだという信仰、感謝と喜びを私たちに与えてくださるお方が聖霊です。

そして私たちを生きているキリストのからだなる教会として集めてくださり、かしらがキリストで私たちはその手足としてキリストに従いキリストに仕えるようにしてください、私たちをキリストの証人として用いてくださり、キリストの栄光を現すように（ヨハネ 16:14）生かしてくださるお方が聖霊です。

私たちにもこの聖霊の力が日々十分に授けられるように心から願い祈ります。